



村のいたるところで見られる文化財 (中松地区 光照寺跡の五重の塔)

# 南阿蘇って

石碑

いいいな

板碑

歌碑

文化

寺社

点在する文化財を訪ねて

(随時掲載)

神体

伝統

歴史

世界農業遺産に認定された阿蘇。

その阿蘇に住む私たちは、先人から受け継いだ農作業の形態を守り継がなければなりませんし、また守り続けたからこそ今回の栄冠につながったものといえます。そんな農作業の一つで、春の風物詩ともいえるのに野焼きがあります。

ほほ打つ風に春の暖かさを感じ始めた3月、例年どおり野焼き作業への出役依頼があったため、阿蘇草原千年の歴史を守るためには「いつやるの?今でしょう!」とばかりに出かけてみました。

そんな壮大な使命感が全身にみなぎっていたせいか、家を出るときにはやや大股で肩も前後に大きく揺れている自分がそこにいました。さて、私の住んでいる地区に割り当てられている野焼きの場所といえば、阿蘇登山道路吉田線のヘアーピンカーブが続く夜峰山中腹からおかまど山を貫く火の山トンネルの入り口付近まで。責任者の第一声で放たれ

た火はまたたく間に枯草に燃え広がり、真っ赤な炎が

地肌を黒々に染めあげていくさまは庄巻そのものです。この日、作業は順調に進んでいたのですが、なんと100メートルほど先で野焼きの異変に気付いたイノシシが突然現れたかと思うと、草原内を山手に向かつて一目散に走り去りました。

その興奮がまだ冷めぬ間に、今度は向かいの丘を2匹のシカが背丈ほど伸びた草をかき分けながら飛び跳ねて行ったのです。さあ、イノシシ・シカを見た後に見たいものといえ

ば、そうもうお分かりのとおりに「猪・鹿・蝶」の蝶です。残念ですがこの時期はまだまだ寒くて、この日蝶は1匹も見ることができませんでした。でも何となく心は晴ればれとした中で、ヘアーピン付近から下界を覗いてみたところ南阿蘇の息をのむほどの美しさに感動を覚えたものです。「南阿蘇っていいな」。

この素晴らしい景色の中に、歴史・文化・伝統などが脈々と息づいており、想像を絶するほどの長い長い人々の営みがあったことが容易にうかがえます。

その証拠に、今視界にあるここだけでも古代人の住居跡がいくつも見つかったり、そのほかにも城址をはじめ、寺社、仏像、神体、石橋、板碑、歌碑などこの南阿蘇にはそれらがたくさん点在しています。

これらすべてが宮々とした中に生まれたもので、後世に残すべきかけがえのない文化財ばかりです。そんな歴史を秘めた文化財の中から、特筆すべきものを探訪しながら紹介していきます。

今回のシリーズはおおむね仏像を中心にお伝えします。もう一つお断りがありますが、これから登場します文化財のすべてがその場所を漠然と表記しています。ご存知のように、かけがえのない文化財を違う価値観でみるような輩(やぶ)がいらっ

えて伏せさせていただきます。

もちろんお勉強目的の方や興味がある方には、村教育委員会などで詳しく教えてくれますのでご安心ください。

なお申し遅れましたが、私は熊本県文化財保護指導委員をしております笠野と

活動範囲と内容は、阿蘇山上の草千里ヶ浜から旧蘇陽町の東竹原、高森町、南阿蘇村、西原村まで計7カ所の国・県が指定した文化財を月一回以上の巡視点検を行って、それぞれのレポートを提出するというものです。

南阿蘇に生まれ南阿蘇で育ち南阿蘇をこよなく愛している者の一人として、この南阿蘇の文化財を私の目を通してもう一度見直してみますので、みなさんも一緒に楽しみみてください。

〔記事と写真〕

熊本県文化財保護指導委員

笠野 次雄